



9月のタイ景気は回復傾向維持

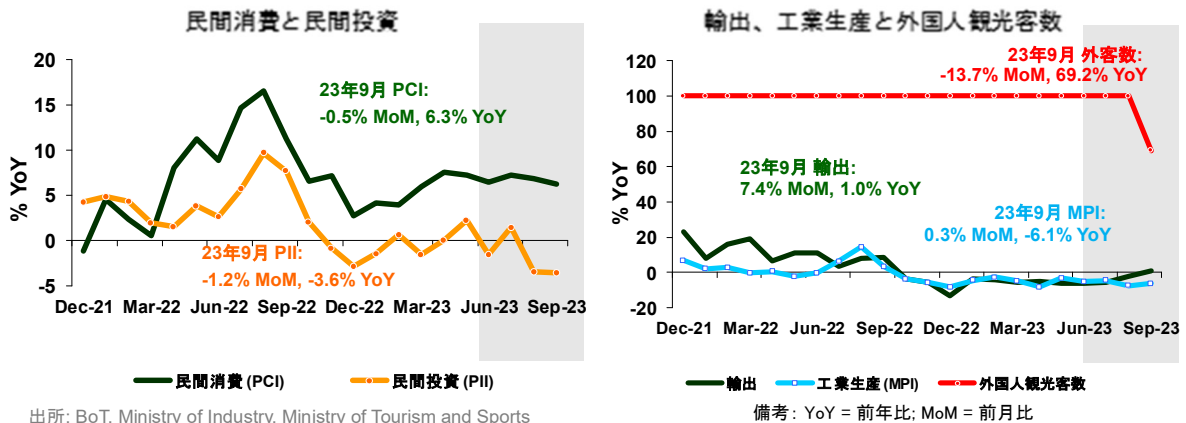
要点

- 2023年9月のタイ経済は回復傾向を維持しています。民間消費と観光業が前年同月に比べ改善しました。また、輸出がマイナス成長からプラス成長に転じています。しかし、製造業の生産が前月に比べ横ばいとなっています。
- 2023年9月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比で0.31%低下し、前月比ではほぼ横ばいとなりました。一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比0.66%上昇し、前月からやや加速しています。
- カシコンリサーチセンターは、タイの2023年の中国向けキャッサバ輸出額が前年比15.0%減の24億2,900万米ドル、コメ輸出額が28.5%減の2億7,600万米ドルになると予測します。
- 中国経済の回復が予想以上に遅れていることに加え、同国が新型コロナウイルス感染症の流行期間中に確保した穀物の在庫を放出しており、タイの穀物輸出への影響は避けられないと見込まれます。また、エルニーニョ現象の影響でタイの穀物生産量が減少することも輸出を押し下げる見込みです。

タイ経済の動向

□ 2023年9月のタイ経済情報

タイ中央銀行が発表した2023年9月の重要な経済指標によると、タイ経済は引き続き回復しています。民間消費と観光業が前年同月に比べ改善しました。また、輸出がマイナス成長からプラス成長に転じています。しかし、製造業の生産が前月に比べ横ばいとなっています。



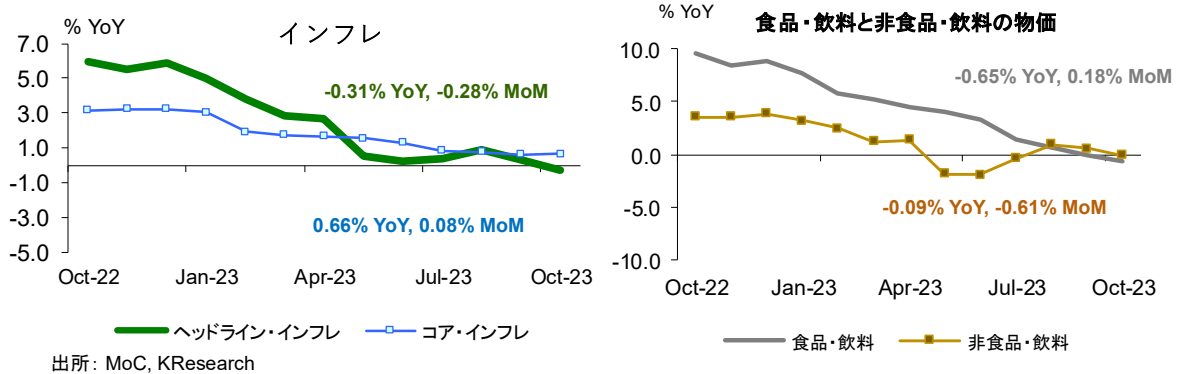
9月の民間消費は前年同月比6.3%増となり、前月に引き続き拡大しています。サービスが15.9%増と全体をけん引しました。このほか、非耐久消費財が0.3%の拡大でしたが、耐久消費財は2.6%減となりました。また、半耐久消費財は0.3%減でほぼ横ばいとなっています。

一方で、民間投資は、前年同月比3.6%減少しました。商用車の販売が30.8%の大幅減で、機械・設備を中心とした資本財の輸入が1.7%増でした。また、建材の販売が1.1%減でした。

9月の輸出は、前年同月比1.0%増の252億米ドルとなりました。香港向けの宝石や南アフリカ向けのコメなどが好調でしたが、自動車や電化製品は振るいませんでした。

工業生産に関しては、前年同月比3.6%縮小しました。ハードディスク駆動装置の世界市場は回復傾向にあるものの、国内における自動車ローンの審査の厳格化による影響で、ピックアップトラックの不振が響きました。

一方で、タイを訪れる外国人の増加で、観光業を中心にサービス業と消費が活発になっています。



商務省が発表した2023年10月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比で0.31%低下し、前月比ではほぼ横ばいでした。一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比0.66%上昇し、前月からやや加速しています。

食品・飲料部門は0.65%低下しました。このうち、「肉・魚」は7.26%下落し、最も大きいマイナスとなりました。このほか、「果物・野菜」が2.38%、「調味料」が1.14%のマイナスとなっています。一方で、非食品・飲料部門は0.09%低下し、前月と比べほぼ横ばいでした。

2023～24年のキャッサバとコメの対中輸出は低迷する見込み

カシコンリサーチセンターは、タイの2023年の中国向けキャッサバ輸出額が前年比15.0%減の24億2,900万米ドル、コメ輸出額が28.5%減の2億7,600万米ドルになると予測します。

中国経済の回復が予想以上に遅れていることに加え、同国が新型コロナウイルス感染症の流行期間中に確保した穀物の在庫を放出しており、タイの穀物輸出への影響は避けられないと見込まれます。また、エルニーニョ現象の影響でタイの穀物生産量が減少することも輸出を押し下げる見込みです。

中国は大豆とトウモロコシの増産計画を進めており、代替作物となっているタイ産キャッサバの需要は2024年以降も伸び悩む見通しです。その結果、2024年のキャッサバの輸出額は2023年見込み比で4.5～8.6%減少すると予測します。また、コメの輸出額も4.0～7.6%減少する見込みです。

監修：カシコンリサーチセンター

本資料は情報提供を唯一の目的としており、ビジネスの判断材料とするものではありません。掲載されている分析・予測等は、資料制作時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また、予測の妥当性や正確性が保証されるものでもありませんし、商業ないし何らかの行動の為に採用することから発生した損害の責任を取れるものでもありません。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自でご判断ください。